

研究のまとめ

現在までの到達点

研究テーマ

金沢のキャリア教育

すべての児童生徒が、支援を受けながら地域で将来自立し社会参加していけるようにするには、その基礎となる「生きる力」を、肢体不自由教育部門でも知的障害教育部門でも、小学部段階から身につけていく必要があります。

本校ではこの2年間、あえて「働く」ことだけに限定しないライフキャリアの教育について研修を重ねながら、キャリア教育の視点を意識したり活用したりして、日々の授業を振り返り、課題を見出し、授業改善に努めてきました。

研究は緒についたばかりですが、現在までの到達点をお見せし、忌憚のないご指導ご助言をいただくなかで、重度・重複及びいわゆる重症心身障害の児童生徒をも含めた「特別支援学校におけるキャリア教育」について、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

分科会

- * **A分科会**は肢体不自由教育部門（小・中・高）です。授業研究を通じて、重度・重複及びいわゆる重症心身障害の児童生徒にとってのキャリア教育を中心にして研究協議をします。
- * **B分科会**は知的障害教育部門（小・中・高）です。授業研究を通じて、キャリア教育の4領域の捉え方や、授業改善に向けた取組みを中心にして研究協議をします。

全体会

- * 肢体不自由教育部門（小・中・高）、知的障害教育部門（小）、知的障害教育部門（中）、知的障害教育部門（高）それぞれから、2年間の研究のまとめを報告します。
- * 最後に、2年間本校の研究を支えてくださった石渡和実先生、菊地一文先生から講評をいただき、特別支援学校におけるキャリア教育について、それぞれのお立場からご提言をしていただこうと思えます。

平成23年1月26日（水）

神奈川県立金沢養護学校

講師・助言者の紹介

東洋英和女学院大学人間科学部教授 石渡和実 先生

筑波大学大学院博士課程修了。埼玉県と横浜市のリハビリテーションセンターに勤務の後、1991年関東学院大学文学部助教授を経て、現在に至る。専門は障害者福祉論。実践の場と関わりながら、障害がある人々の地域の暮らしをいかに支えるか、そのための地域のネットワークをいかにして築いていくかなど、障害者の地域生活と社会参加を支援するための研究と提言をしている。また、障害者や高齢者の人権をいかにして守るかなどの活動にも広く関わっている。主な著書として「Q&A 障害者問題の基礎知識」「はじめて学ぶ障害者福祉～当事者主体の視点から～」などがある。

国立特別支援教育総合研究所主任研究員 菊地一文 先生

弘前大学大学院修士課程修了。青森県内の国公立養護学校勤務を経て、現在に至る。知的障害、自閉症、授業づくり、キャリア教育を専門分野とし、国立特別支援教育総合研究所専門研究B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」の研究代表を務めた。知的障害教育におけるキャリア教育研究をリードしている若手の第一人者である。主な著書として「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブックー知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス（試案）』に基づく実践モデル例の提案ー」「特別支援学校新学習指導要領の展開」などがある。